愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	理科	学年	3	年	時間数	140 時間
----	----	----	---	---	-----	--------

教	:科書	名 新しい科学	堂3年 新編化学基礎	出版社名	東京書籍						
			指導計画				「の街				
学期	月	<b>#</b> =	授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等								
241		単 元 単元2 生命の連続性	内 1 生物の歴史 2 水中から陸上へ	谷		知〇	思	主	授業の概要		
		3章 生物の多様性と進化	3 さまざまな進化の証拠 4 進化と多様性			0		$\overline{}$	理科は、物質やエネルギー、生物や自然に関す		
	4	3章 主物の多様ほと進化    単元3 運動とエネルギー		の赤ル	ŀ				る内容を単元ごとに入れ替えながら学習し、中学 理科の内容が終了したあとで、高校の理科の内		
			1 物体の運動の記録 2 物体の運動の速さの まごんまごんまごといる まこん まごんまご かんしゅう			0			容を学習します。		
		・1章 物体の運動	3 だんだん速くなる運動 4 だんだんおそくなる	0連期		0			3年生では、中学理科の内容として、「生命の連続性」、「運動とエネルギー」、「地球と宇宙」、「化		
		2章 力のはたらき方	1 力の合成と分解 2 慣性の法則  -			0	0		学変化とイオン」、「地球と私たちの未来のため に」について学習します。		
-	5	中間考査(5/13~5/14)				0	0		高校の理科の内容は、「化学基礎」という科目に ついて、学習します。		
			3 作用・反作用の法則 4 水中ではたらくカ				0	0	実験・観察も行いますが、計算問題などの難しい 問題の演習も行い、基礎・基本の習得や応用力を		
学		- 3章 エネルギーと仕事	1 さまざまなエネルギー 2 力学的エネルギー	_			0		身に付けます。		
期			3 仕事と力学的エネルギー				0				
241	6		4 仕事の原理と仕事率 5 エネルギーの変換	と保存 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		0	0				
		単元4 地球と宇宙	1 太陽			0		0	学習の到達目標		
		- -期末考査3年(6/25~7/1)				0	0		・自然の事物・現象についての理解を深め、科学 的に探究するために必要な観察、実験などに関す		
						0	0		る基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を		
	7	1章 地球の運動と天体の動き	1 太陽の1日の動き 2 地球の自転と方位、	時刻 3 星の1日の動き		0	0		養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探		
	,		4 天体の1年の動き 5 地軸の傾きと季節の	変化		0		0	究しようとする態度を養う。		
夏											
季		夏季休業日(7/19~8/24)									
<b>-</b>	8										
		2章 月と金星の見え方	1 月の満ち欠け 2 日食と月食			0		0			
			3 金星の見え方			0	0				
	9	3章 宇宙の広がり	1 太陽系の天体 2 宇宙の広がり			0		0	評価の観点		
	_	単元5 地球と私たちの未来のために	1 生態系			0		0	知識 • 技能		
		1章 自然のなかの生物	2 生態系における生物の関係 3 炭素の循环	<b>景と地球温暖化</b>		0		0	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探		
		- 2章 自然環境の調査と保全	1 身近な自然環境の調査 2 人間による活動	助と自然環境 3 自然環境	もの開発と保全 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			$\circ$	究するために必要な観察、実験などに関する基本 操作や記録などの基本的な技能を身に付けてい		
_		中間考査(10/7~10/8)				0	0		またで記録などの <u>極</u> 本的な反形を多に向けている。		
_	10	3章 科学技術と人間	1 さまざまな物質とその利用 2 エネルギー	資源の利用				0			
学		地域とつながる	3 科学技術の発展 自然災害と地域のかかわり	りを学ぶ				0	思考 ・ 判断 ・ 表現		
#0		終章 持続可能な社会をつくるために	1 地球環境と私たちの社会		ľ	0		0	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しを もって観察、実験などを行い、得られた結果を分		
期		単元1 化学変化とイオン	1 水溶液と電流		ľ	0			析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。		
	11	1章 水溶液とイオン	2 電解質の水溶液の中で起こる変化 3 イオ	ンと原子のなり立ち			0				
		2章 酸、アルカリとイオン	1 酸性やアルカリ性の水溶液の性質		•	0					
		期末考査3年(11/26~12/2)				0	0		主体的に学習に取り組む態度		
		州木与直3年(11/20~12/2)			ľ	0	0		自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようと		
	12		2 酸性、アルカリ性の正体			0			している。		
			3 酸とアルカリを混ぜ合わせたときの変化				0				
冬季		冬季休業日(12/20~1/7)									
		3章 化学変化と電池	1 電解質の水溶液の中の金属板と電流 2 金属	のイオンへのなりやすさのちがい	と電池のしくみ	0			評 価 方 法		
	1		3 ダニエル電池 4 身のまわりの電池		ľ	0		0	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観		
		化学基礎 1編 化学と人間生活 1章 科学とは何か	・身のまわりの化学		ľ			$\circ$	点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト		
_		2章 物質の成分と構成元素	1 物質の成分 2 物質の構成元素 3	物質の三態	•	0			等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま		
三		2編 物質の構成	1 原子の構造		•	0			す。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し		
学	2	1章 原子の構造と元素の周期表	2 電子配置と周期表		ľ	0			ます。		
#5		**			•	0	0				
期		学年末考査3年(2/20~2/27) -				0	0				
		2章 化学結合	- 1 イオンとイオン結合		ŀ	0	0				
	3		2 分子と共有結合		ŀ	0	0				
			3 金属と金属結合 4 化学結合と物質の分類	Ą	ŀ		0				

 教
 理科
 科目
 化学基礎
 学年
 4
 年
 類型
 共通
 共通
 単位数

新編 化学基礎 教科書名 東京書籍 出版社名 指導 計画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 思 単元 容 知 内 0 0 3編 物質の変化 1 原子量·分子量·式量 授業の概要 化学基礎の授業では、物質は粒子であるという 0 0 化学の基本的な考えから始まり、徐々に酸と塩基 ○ の中和、酸化と還元、電気分解などの物質の変化 1章 物質量と化学反応式 2 物質量 に関する内容を学びます。 0 実験、観察を通して自然現象の中に隠れた法則 性に気付き、考えを深めることが大切です。 0 0 3 溶液の濃度 5 中間考査(5/13~5/16) 0 0 0 0 4 化学反応の表し方・化学反応式 ・イオン反応式 0 0  $\odot$ 0 5 化学反応式の表す量的関係 期 ・化学反応式の表す量的関係 0 0 0 化学の諸法則 学習の到達目標 ・化学的な事物・現象についての観察、実験を行 0 0 い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する 期末考査(6/25~7/1) 関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と 0 0 |態度を身に付ける。 2章 酸と塩基 1 酸と塩基・酸と塩基の性質・酸と塩基の定義・広い意味の酸・塩基 0 0 ○ ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な |概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観 7 0 ○を育成できる。 ・酸と塩基の価数・酸と塩基の強弱 ・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用い て基本的な化学現象について探究し、日常生活 や社会と関連づけて考察できる。 夏季休業日(7/19~8/24) 季 8 0 0 |2 水素イオン濃度とpH ・水素イオン濃度 0 0 · 水素イオン濃度とpH ·pH指示薬とpHの測定 0 評価の観点 3 中和反応と塩の生成 4 中和滴定・中和反応の量的関係 0 知識 • 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原  $\odot$ 0 •中和滴定 理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するととも 中間考査5年(9/30~10/3) 0 •滴定曲線 に、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、 0 自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身 中間考査4・6年(10/7~10/10) 0 に付けている。 0 3章 酸化還元反応 10 1 酸化と還元・酸化と還元 0 学 ・酸化数と酸化還元反応 0 思考・ 判断・ 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 0 2 酸化剤と還元剤・酸化剤と還元剤 する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 期 【出した考えを的確に表現している。 0 0 ・電子の授受と酸化還元反応式 0 0 酸化剤と還元剤のはたらきの強さ 11 0 •酸化還元滴定 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 0 的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 ○ 度を身に付けている。 0 3 金属の酸化還元反応・金属のイオン化傾向 12 0 0 ・ 金属の反応性 冬季休業日(12/20~1/7) 評 価 方 法 4 酸化還元反応の応用・ 電池の仕組み 0 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 実用電池 現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 ○ 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 ○ 「等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま 金属の精錬 Ξ ┪す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し 0 電気分解 た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。 0 0 学 2 0 0 期 学年末考査4・5年(2/20~2/27) 0 0 備 考 内容は前期課程の理科よりも高度になります。 0 問題演習 0 0 暗記事項や計算事項も増えてきます。週に2回 ○ しか授業がありませんから、復習を心がけ、一日 3 0 --問の問題演習を継続することが大切です。 0 0 0

 教科
 理科
 科目
 地学基礎
 学年
 4
 年
 類型
 共通
 共通
 単位数

地学基礎 教科書名 東京書籍 出版社名 指 導 計 画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 思 単 元 容 知 内 0 1編 私たちの大地 1 地球の形と大きさ O 授業の概要 一学期は、地球の構造、火山ができる仕組み 0 0 1章 大地とその動き |2 地球の構造 や、地震が起こる仕組みについて学びます。 二学期は、大気の運動とその原因となる太陽放 0 |3 地球内部の動きとプレート |射、地球の歴史について学びます。 0 |4 大地形の形成と地質構造 三学期は、地層の成り立ち、造山運動、太陽と 太陽系の成り立ち、宇宙の構造と成り立ちについ 0 0 5 変成岩と変成作用 て学びます。 最後に、自然災害への備えや、災害発生時の行 0 0 5 中間考査(5/13~5/16) 動について考えます。 1 火山噴火の多様性 0 2章 火山活動と地震 2 火成岩 0 0 0 0 3 地震の発生 期 0 0 |4 地震が起こる場所 0 0 学習の到達目標 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 0 0 ・地球表面や内部で起こる運動とそれに伴う地震・火 期末考査(6/25~7/1) 山や造山運動の仕組みについて理解することができ  $\odot$ 0 ・岩石、鉱物や化石などを観察し、種類の違いを区別 0 0 2編 私たちの空と海 1 地球大気の構造 できる。 ・太陽放射と地表付近の気象現象との関係について 1章 地球の熱収支 0 0 2 地球の大気で起こる現象 理解できる。 ・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解で 夏季休業日(7/19~8/24) きる。 季 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組 8 みを理解し、災害への備えや災害発生時の行動につ いて考えておくことができる。 3 地球の熱収支 0 0 2章 大気と海水の運動 0 |1 大気や海水の運動の原因 0 評価の観点 2 大気の大循環 O |3 海水とその運動 知識 • 技能 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 0 4 大気と海洋の相互作用 ・地球表面や内部で起こる運動とそれに伴う地震・火山や造山運動の仕組みについて理解すること ・岩石、鉱物や化石などを観察し、種類の違いを区別できる。 ・太陽放射と地表付近の気象現象との関係について理解できる。 0 中間考査5年(9/30~10/3) ・水が気象現象に及ぼす影響について理解できる。 ・太陽系の成り立ちについて理解できる。 ・銀河と宇宙の構造、宇宙の成り立ちについて理解できる。 ・地震・火山や気象災害などの自然災害が起こる仕組みを理解し、災害への備えや災害発生時の 中間考査4・6年(10/7~10/10) 0 0 行動について考えておくことができる。 10 4編 私たちの地球の歴史 0 0 1 地層の形成 0 0 思考 • 判断 • 表現 学 1章 地層と化石の観察 2 地層からわかる情報 地球や地球を取り巻く環境ついて、課題を見い 0 2章 古生物の変遷と地球環境 2 先カンブリア時代 |1 地球史の最初期 だし見通しをもって実習などを行い、科学的に考 期 |察し表現することができる。 0 4 中生代 0 |3 古生代 0 0 6 人類の進化 5 新生代 11 0 7 地球環境の変化による生物の変遷 0 主体的に学習に取り組む態度 0 期末考査(11/26~12/2) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり 0 0 科学的に探究しようとする態度と自然環境の保全 ◎ に寄与しようとしている。 0 3編 私たちの宇宙の誕生 1 宇宙の誕生と宇宙の姿 12 0 0 2 太陽系の誕生 1章 宇宙の構造と進化 冬季休業日(12/20~1/7) 評 価 方 法 3 太陽系の構成 0 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 4 太陽の特徴 現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 ◎ 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 |5 地球の特徴 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 0 ||等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま 5編 地球に生きる私たち 1 日本の自然環境の特徴 2 日本の自然の恵み Ξ |す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し ◎ た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し 0 1章 日本の自然の恵みと防災 |3 気象災害と防災 ます。 0 0 学 2 4 地震による災害と防災 5 火山による災害と防災 0 0 学年末考査4・5年(2/20~2/27) 期 0 備 0 考 0 終1章 地球環境の考え方 終2章 自然環境の変動 1 地球環境の考え方 1 自然環境の変化 0 終3章 これからの地球環境 0 2 人間活動がもたらす自然環境の変化 1 世界の取り組み 0 0 2 代替エネルギー 3 持続可能な発展へ

#### 令和7年度 バ

ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科     理科     科目     物理基礎 物理     学年     5     年     類型     理科系     単位数     2     2	単位
--	----

物理基礎 物理 教科書名 出版社名 数研出版 指 導 計画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 思 単 元 容 知 内 0 第1編 運動とエネルギー 1 速度 2 加速度 授業の概要 第1編は物理基礎、物理とも力学分野です。主  $\odot$ 0 |第1章 運動の表し方 3 落体の運動 こ運動する物体について規則性やエネルギー、ま たそれらの法則を学びます。 0 第2章 運動の法則 |1 力とそのはたらき 2 力のつりあい 第2編は熱・熱エネルギーに関する内容です。物 0 |3 運動の法則 ◎ 【理基礎で、熱に関する諸現象を学び、物理ではそ のメカニズムを詳しく学習します。  $\odot$ 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力 O 第3編は波に関する内容です。波動現象の基本 的な性質や特徴を学び、音や光の諸現象を学習 0 5 中間考査(5/13~5/16) 0 物理基礎の第4編は電気分野です。オームの法 0 第3章 仕事と力学的エネルギー 1 仕事 則や電気エネルギーについて学びます。 物理基礎の第5編は、身の回りで利用されてい 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 0 るエネルギーや、社会で実用化されている技術に ◎ 関して、物理的側面からその仕組みを学習しま 4 力学的エネルギーの保存 期 第2編 熱  $\odot$ 0 1 熱と物質の状態 |第1章 熱とエネルギー |2 熱と仕事 学習の到達目標 ・物理的な事物・現象についての観察、実験を行  $\odot$ 0 い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する |期末考査(6/25~7/1) 関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と 0 0 態度を身に付ける。 第3編 波 0 ○ I・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な |1 波と媒質の運動 |概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観 0 ◎ を育成できる。 第1章 波の性質 2 波の伝わり方 ・物理学の基本法則を学び、それらを用いて基本 |的な物理現象について解析することができる。 |夏季休業日(7/19~8/24) 季 8  $\odot$ 0 第2章 音 1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴 第4編 電気 第1章 物質と電気 |1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電気とエネルギー 0 第2章 磁場と交流 |1 電流と磁場 2 交流と電磁波 評価の観点 |1 エネルギーの移り変わり 0 |第5編 物理学と社会 知識 · 技能 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の 0 |第1章 エネルギーとその利用 2 エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界 |運動と様々なエネルギーについて理解するととも 【に、科学的に探究するために必要な観察、実験な 0 0 中間考査5年(9/30~10/3) どに関する基本的な技能を身に付けている。 1 平面運動の速度・加速度 0 中間考査4・6年(10/7~10/10) 0 10 第1編 力と運動  $\odot$ 0 2 落体の運動 0 0 思考 • 判断 • 表現 学 第1章 平面内の運動 1 剛体に働く力のつりあい 物体の運動と様々なエネルギーについて、観 0 0 第2章 剛体 |2 剛体にはたらく力の合力と重心 察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表 期 現している。 0 0 第3章 運動量の保存 1 運動量と力積 2 運動量保存則 0 0 3 反発係数 11 0 1 等速円運動 2 慣性力 0 |第4章 円運動と万有引力 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関 0 0 わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科 学的に探究しようとしている。 0 3 単振動 0 12 0 0 4 万有引力 冬季休業日(12/20~1/7) 第2編 熱と気体 0 評 価 方 法 2 気体分子の運動 1 気体の法則 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 1 第1章 気体のエネルギーと状態変化 |3 気体の状態変化 |現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 ◎ 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 第3編 波 1 波と媒質の運動 2 正弦波の式 |業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト ○ 「等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま 第1章 波の伝わり方 |3 波の伝わり方 Ξ ┪す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し ○ た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し 第2章 音の伝わり方 1 音の伝わり方 ます。  $\bigcirc$ 0 学 2 2 音のドップラー効果 0 0 期 学年末考査4・5年(2/20~2/27) 0 0 考 進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日 第3章 光 0 0 1 光の性質 - 問の問題演習を継続することが大切です。 3 0 0 2 レンズと鏡 0 3 光の干渉と回折

## 令和7年度シラバス

化学Vol.1理論編 教科書名 東京書籍 出版社名 指 導 計 画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 知 思 単 元 容 内 有効数字の計算 0 0 化学基礎の復讐 授業の概要 第1編は物質の状態と平衡に関する内容です。 0 主に気体・液体・固体の性質や構造について学び ます。 1 物質の三態  $\odot$ 0 1編 物質の状態 1章 物質の状態 第2編は化学反応とエネルギーに関する内容で す。化学反応によって生じる熱や光、電池や電気 0 |2 気体・液体間の状態変化 分解のしくみを学習します。 0 第3編は化学反応の速さと平衡に関する内容で す。反応速度の理論や可逆反応における平衡移 0 5 中間考査(5/13~5/16) 0 動およびその法則などを学習します。 化学の第4編と第5編以降は、主に6年生で学 ○ 間します。 0 2章 気体の性質 1 気体 0 学 0 0 2 気体の状態方程式 期 0 0 0 0 学習の到達目標 ・化学的な事物・現象についての観察、実験を行 0 0 い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する 期末考査(6/25~7/1) 関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と 0 0 |態度を身に付ける。 1 溶解  $\odot$ ○ ・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な 3章 溶液の性質 概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観 7 0 0 2 気薄溶液の性質 を育成できる。 ・化学の基本法則を学び、それらを用いて基本的 な化学現象について解析することができる。 夏季休業日(7/19~8/24) 季 8 3 コロイド  $\odot$ 0 4章 固体の構造 0 0 |1 結晶 0 2 金属結晶の構造 評価の観点 0 0 O 知識 • 技能 |3 イオン結晶の構造 自然の事物・事象について、基本的な概念や原  $\odot$ 0 |4 分子結晶と共有結合の結晶 理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するととも 中間考査5年(9/30~10/3) 0 0 に、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、 0 0 中間考査4・6年(10/7~10/10) |自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身 に付けている。 0 0 10 2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 1 反応とエンタルピー変化 0 学 2 へスの法則 0 思考・ 判断・ 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 0 0 する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 期 ○ 出した考えを的確に表現している。 0 3 光とエネルギー 0 0 |2章 電池と電気分解 1 電池 0 2 電気分解 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 0 |的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 ○ 度を身に付けている。 0 3編 化学反応の速さと平衡 1章化学反応の速さ 1 反応の速さ 12 0 0 2 反応速度を変える条件 冬季休業日(12/20~1/7) 評 価 方 法 0 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 3 反応の仕組み 現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 ○ 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 2章 化学平衡 0 1 可逆反応と化学平衡 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 ○ 「等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま Ξ ┪す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し 0 2 平行移動 た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。 0  $\odot$ 学 2 0 0 期 学年末考査4・5年(2/20~2/27) 0 備 0 考 0 0 1 電離平衡 3 0 0 0 0 2 塩の水への溶解

令和7年度シラバス

 教科
 理科
 科目
 生物基礎
 学年
 5
 年
 類型
 文科系
 学位数

高等学校 生物基礎 教科書名 出版社名 数研出版 指 導 計 画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 思 単 元 容 知 内 第1節 生物の多様性と共通性 0 授業の概要 第1編 生物の特徴 0 生物の共通性について考え、遺伝子やタンパク 第2節 エネルギーと代謝 0 0 |第1章 生物の特徴 質の合成、ヒトを中心とした動物の生理、生物の ◎ 多様性に注目した生態系などについて大まかに 第3節 呼吸と光合成 0 0 広く学びます。 0 0 |知識の確認・補充問題 座学だけでなく、観察、実験などの探究活動を通 して、生物学的に探究する能力と態度を身に付け 0 0 |知識の確認・補充問題 るとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則 を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けま 0 5 中間考査(5/13~5/16) 0 0 0 第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 0 0 0 0 |第3節 遺伝情報の発現 期 |知識の確認・補充問題 0 0 0 学習の到達目標 |知識の確認・補充問題 0 ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生 0 0 物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、 期末考査(6/25~7/1) |実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度 0 0 を身に付ける。 知識の確認・補充問題 0 0 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、 科学的な見方や考え方を身に付ける。 7 0 0 知識の確認・補充問題 夏季休業日(7/19~8/24) 季 8 0 第2編 ヒトの体内環境の維持 |第1節 体内での情報伝達と調節 0 0 第3章 ヒトの体内環境の維持 第2節 体内環境の維持のしくみ 0 0 0 0 0 評価の観点 0 0 知識 • 技能 |知識の確認・補充問題 自然の事物・事象について、基本的な概念や原 0 |知識の確認・補充問題 0 理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するととも 中間考査5年(9/30~10/3) 0 0 に、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、 0 中間考査4・6年(10/7~10/10) 0 |自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身 に付けている。 10 0 0 0 第3節 免疫のはたらき 0 0 学 第3編 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 0 思考・ 判断・ 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 0 0 第4章 生物の多様性と生態系 する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 期 ◎ 出した考えを的確に表現している。 0 0 |第2節 植生の分布とバイオーム 0 0 |知識の確認・補充問題 11 0 知識の確認・補充問題 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 0 |的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 ◎ 度を身に付けている。 第3節 生態系と生物の多様性 0 0 12 0 0 0 冬季休業日(12/20~1/7) 評 価 方 法 第4節 生態系のバランスと保全 0 0 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 |点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 知識の確認・補充問題 0 0 |業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 0 ||等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま 知識の確認・補充問題 Ξ す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し 0 0 知識の確認・補充問題 た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。 0 0 学 2 |知識の確認・補充問題 0 0 期 学年末考査4・5年(2/20~2/27) 0 備 0 考 0 0 探究活動1 0 3 0 探究活動2 0 0 0 0 0 探究活動3

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	生物基礎 生物	学年	5	年	類型	理科系 位 数	里 位 ***	2 2 単位
----	----	----	------------	----	---	---	----	---------------	---------------	--------------

ス

高等学校 生物基礎・生物 教科書名 出版社名 数研出版 指 導 計 画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 思 単 元 容 知 内 生物基礎 第1編 生物の特徴 0 第1節 生物の多様性と共通性 0 授業の概要 生物基礎の授業では、生物の共通性について 第2節 エネルギーと代謝 0 0 |第1章 生物の特徴 考え、遺伝子やタンパク質の合成、ヒトを中心とし ○ た動物の生理、生物の多様性に注目した生態系 第3節 呼吸と光合成 0 知識の確認・補充問題 |などについて大まかに広く学びます。 0 第2章 遺伝子とそのはたらき 0 第1節 遺伝情報とDNA 生物の授業では、生物基礎の内容をベースに、 さらに広く深く学びます。5年次には、生物の進 ◎ 化、細胞と分子、代謝、遺伝情報の発現と発生に 0 0 |第2節 遺伝情報の複製と分配 ついて学びます。 0 0 5 中間考査(5/13~5/16) 座学だけでなく、観察、実験などの探究活動を通 して、生物学的に探究する能力と態度を身に付け 0 0 第3節 遺伝情報の発現 るとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則 【を考察し、科学的な見方や考え方を身に付けるこ 知識の確認・補充問題 0 0 とができます。 0 0 第2編 ヒトの体内環境の維持 |第1節 体内での情報伝達と調節 期 |第3章 ヒトの体内環境の維持 第2節 体内環境の維持のしくみ 0 0 0 0 |第3節 免疫のはたらき 学習の到達目標 ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生 0 0 物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、 期末考査(6/25~7/1) |実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度 0 0 を身に付ける。 0 0 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、 |知識の確認・補充問題 科学的な見方や考え方を身に付ける。 7 0 0 知識の確認・補充問題 夏季休業日(7/19~8/24) 季 8 第3編 生物の多様性と生態系 0 0 0 第4章 生物の多様性と生態系 0 0 |第1節 植生と遷移 0 0 0 |第2節 植生の分布とバイオーム 評価の観点  $\circ$ |第3節 生態系と生物の多様性 O 知識 · 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原 0 |第4節 生態系のバランスと保全 0 理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するととも 0 中間考査5年(9/30~10/3) 0 に、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、 0 自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身 中間考査4・6年(10/7~10/10) 0 に付けている。 10 生物 第1編 生物の進化 0 0 0 学 第1章 生物の進化 |第1節 生命の起源と生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 0 0 0 思考・ 判断・ 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 0 0 |第3節 遺伝子の組み合わせの変化 第4節 進化のしくみ する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 期 ◎ 出した考えを的確に表現している。 0 |第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化 0 0 0 0 |第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞 第2節 タンパク質の構造と性質 0 0 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 0 |的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 ◎ 度を身に付けている。 0 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 0 12 0 0 知識の確認・補充問題 冬季休業日(12/20~1/7) 第3章 代謝 評 価 方 法 第1節 代謝とエネルギー 第2節 代謝と発酵 0 O 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 第3節 光合成 現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 知識の確認・補充問題 0 |業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 第3編 遺伝情報の発現と発生 0 0 ◎ 【等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま Ξ ┪す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し ○ た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し 0 0 第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 ます。 0 0 0 学 2 |第3節 遺伝子の発現調節 0 0 学年末考査4・5年(2/20~2/27) 期 0 0 備 考 進度はかなり速くなります。復習を心がけ、一日 0 第4節 発生と遺伝子発現 0 0 -問の問題演習を継続することが大切です。 3 0 第5節 遺伝子を扱う技術 0 0 0 0 知識の確認・補充問題

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用) 探究理科I 教 単位 文科系 理科 5 年 位 2 目 年 科 型 (化学分野) 数

ス

理科学習資料 探究 愛媛県高等学校教育研究会理科部会 教科書名 出版社名 指 導 計画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 単 元 知 思|主 容 内 有効数字の計算 有効数字の計算 0 0 授業の概要 身の回りの産業やそこで利用されている科学的 0 0 な仕組みについて学習し理解を深めた後、化学基 礎の内容を復習していきます。4年次にできなかっ 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 1 原子の構造 0 た実験や観察を行い、科学的な考え方や態度を 0 |身に付けます。3学期には、化学分野における総 1 物質の構成粒子 復習の意味で、問題演習を中心として学力の定着 0 0 2 電子配置と周期表 を図ります。 0 0 5 中間考査(5/13~5/16) 0 2 化学結合 1 イオンとイオン結合 0 0 学 0 0 2 分子と共有結合 期 0 0 6 3 金属と金属結合 学習の到達目標 ・自然における化学の基本的な概念や原理・法則 0  $\odot$ を理解すると同時に、これらを活用して新しい事物 期末考査(6/25~7/1) |や、複雑な事象の奥にある原理や法則を解明す 0 る能力を養う。 4 化学結合と物質の分類 0 ○ ・物質や物質の状態・変化について化学的に考察 する態度と能力を養い、科学的に正しい物質観を 7 育てる。 0 夏季休業日(7/19~8/24) 季 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 0 1 原子量・分子量・敷料 0 0 0 0 0 2 物質量 評価の観点 0 0 知識 • 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原 0 3 溶液の濃度 理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するととも 0 中間考査5年(9/30~10/3) 0 に、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、 0 0 中間考査4・6年(10/7~10/10) |自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身 に付けている。 0 10 0 4 化学反応の表し方 0 学 5 化学反応式の表す量的関係 0 思考 · 判断 · 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 0 0 する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 期 ○ 出した考えを的確に表現している。 0 2章 酸と塩基 1 酸と塩基 0  $\odot$ 2 水素イオン濃度とpH 11 0 3 中和反応と塩の生成 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 0 |的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 度を身に付けている。 0 0 4 中和滴定 12 0 0 冬季休業日(12/20~1/7) 3章 酸化と還元 0 評 価 方 法 1 酸化と還元 0 学習の状況は「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 2 酸化剤と還元剤 現」、「主体的に学習に取り組む態度」、の3つの 【観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、 0 0 |3 金属の酸化還元反応 「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま 0 4 酸化還元反応の応用 Ξ す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し 0 0 問題演習 問題演習 た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。 0 0 学 2 0 0 期 学年末考査4・5年(2/20~2/27) 0 0 備 考 0 0 問題演習 問題演習 3 0 0 0 0

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	理科	科目	探究理科 I (地学分野)	学年	5	年	類型	<b>又科</b> 系	単位数	2	単位
----	----	----	------------------	----	---	---	----	-------------	-----	---	----

理科学習資料 探究 愛媛県高等学校教育研究会理科部会 教科書名 出版社名 指 導計画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 単 元 知 思 容 内 四国の自然 ・四国の地質 0 0 授業の概要 一学期は、四国の地質について学び、四国の成 ・火成岩の観察 0 ・堆積岩の観察 0 り立ちについて考察します。また四国で発生する 地震のメカニズムと想定される災害について学 0 0 ・変成岩の観察 び、今後の防災への備えについて考えます。 ○ 二学期は、火山噴火の仕組みと災害、大気の運 ・地層の形成 動の仕組みと気候との関係、四国の気象災害、愛  $\odot$ 0 ・岩石薄片の観察 媛に縁のある先人や産業について学びます。 三学期は、今まで学んだことを生かし、問題演習 0 0 5 中間考査(5/13~5/16) を通して地学分野に関する理解を深めていきま 0 0 ・地震発生のメカニズム 2 地震と災害 学 ・四国沖で発生する地震 0 0 0 0 ・四国の活断層と地形 期 0 ・地震による災害と防災 0 家庭での防災の取組 学習の到達目標 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 0 0 ・四国の成り立ちと、現在も起こる地震とその災害 期末考査(6/25~7/1) について理解し、防災意識を高めることができる。 0 0 ・日本で起こる火山災害、気候の仕組みと四国で 3 火山と災害 ・マグマの成分と火山噴火との関係 0 0 発生する気象災害について理解し、防災意識を高 めることができる。 7 ◎ ▼・愛媛に縁のある先人や産業について理解でき 0 ·火山災害 ・人間の生活と自然環境との相互作用を理解し、 持続可能な社会を構築するための行動目標を設 夏季休業日(7/19~8/24) 定することができる。 季 8  $\odot$ 4 気象と災害 日本の気候 0 ・世界の気候 0 0 0 評価の観点 大気の大循環 0 O 知識 • 技能 ・日本付近の気団 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や 0 四国の気象災害 •気候と海流 |地球を取り巻く環境について理解しているととも に、科学的に探究するために必要な観察・実験な 0 0 中間考査5年(9/30~10/3) どに関する基本的な技能を身に付けている。 0 中間考査4・6年(10/7~10/10) ・大野作太郎と化石 0 10 5 愛媛の先達・産業 ·別子鉱山 0 0 0 学 ドロマイト鉱山 思考 · 判断 · 表現 地球や地球を取り巻く環境について、問題を見 0 0 ・人間活動と自然との相互作用 いだし見通しをもって観察・実習などを行い、科学 期 的に考察し表現しているなど, 科学的に探究して 0 0 6 人間の生活と自然環境 持続可能な社会 いる。 0 0 ・まとめ 11 0 0 問題演習 •問題演習 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 地球や地球を取り巻く環境について主体的に関 0 0 わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科 学的に探究しようとしている。 0 0 問題演習 •問題演習 12 0 0 冬季休業日(12/20~1/7) 問題演習 評 価 方 法 •問題演習  $\odot$ 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 0 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 0 ||等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま Ξ す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し 0 0 た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。 0 0 学 2 0 0 期 学年末考査4・5年(2/20~2/27) 備 0 0 考 •問題演習 0 0 問題演習 3 0 0 0 0

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科		理科	科目	物理	学年	6 年	類型	理科系		自任	单 立 效	4 単位
教	科書	名		物理				出版社名				数研出版
学					指	導計画			評値	西の観	見点	<u> </u>
学期	月	単元				内	容	3	知	思	主	- 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		第2章 音の伝わり方		1 音の伝わり方	•				0		0	授業の概要
	4			2 音のドップラー	−効果	<del>[</del>			0		0	<b>【気エネルギー、磁気に関する内容を学び、電流と</b>
		第3章 光		1 光の性質					0	0		磁気の関連性について学習を深めていきます。 第5編は、原子に関する内容です。ミクロな世
				2 レンズと鏡					0	0		界における、物質の粒子性と波動性や、原子の構造、原子核の反応について学習します。
				3 光の干渉と回	折				0			近、水 1 以の及心に 20 で 子自しよう。
_	5	中間考査(5/13~5/16)							0	0		
		4編 電気と磁気		1 静電気力 2	2 電	場 3 電位			0		0	
学		1章 電場		4 物質と電場	5 =	コンデンサー			0	0		
#0		2章 電流		1 オームの法則	J	2 直流回路 3 半導体			0	0		
期	6	3章 電流と磁場		1 磁場 2 電	流の	作る磁場			0	0		
				3 電流が磁場か	ら受	けるカ 4 ローレンツカ			0			学習の到達目標
		期末考査(6/25~7/1)							0	0		・物理的な事物・現象についての観察、実験を行い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する
		//////////////////////////////////////							0	0		関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と 態度を身に付ける。
		4章 電磁誘導と電磁波		1 電磁誘導の法	5則				0		0	・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な ・概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観
	7			2 自己誘導と相	互誘	道 			0	0		を育成できる。 ・物理学の基本法則を学び、それらを用いて基本
夏												的な物理現象について解析することができる。
季		夏季休業日(7/19~8/24)										
	8											
				3 交流の発生					0	0		
				4 交流回路					0	0		
				5 電磁波					0		0	評価の観点
	9	5編 原子		1 電子					0	0		知識・技能
		1章 電子と光		2 光の粒子性		X線			0	0		自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察・
		中間考査5年(9/30~10/3)		4 粒子の波動性 	Ė				0		ļ	実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事
=		中間考査4・6年(10/7~10/1	10)						0	0		物・現象を科学的に探究する技能を身に付けてい る。
	10	2章 原子と原子核		1 原子の構造と	:エネノ	ルギー準位			0	0		_ tt
学				2 原子核					0	0		思考 ・ 判断 ・ 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究
期				3 放射線とその		1.9			0			する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き
				4 核反応と核エ	ネル=	<del>+-</del>			0	0		出した考えを的確に表現している。
	11			5 素粒子					0		0	
		期末考査(11/26~12/2)							0	0		主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲
									0	0		的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態
	12	問題演習		問題演習					0	0		度を身に付けている。
冬		カエル <u>サロ(10 (00 1 (0</u> )							0	0		
冬季		冬季休業日(12/20~1/7)		88 85 冷切								50 /# + >+
		問題演習		問題演習					0	0		評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表
	'								0	0		現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授
									0	0	<b> </b>	* 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま
Ξ				家庭学習					0	0	<b></b>	す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し
学	2			が焼ず日					<b>)</b>	0		た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。

0

0

0

考

0

0

0

学

期

2

 教科
 理科
 科目
 化学
 学年日
 6
 年型型
 理科系
 単位数

3 単位

化学 vol.2 物質編 教科書名 東京書籍 出版社名 指 導 計 画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 思 単 元 容 知 内 0 0 4編 無機物質 1章 周期表と元素 1 周期表と元素 0 授業の概要 化学では、前年度から引き続いた内容を学習し 1 水素とその化合物 2 貴ガス 3 酸素とその化合物 2章 非金属元素の単体と化合物 0 0 0 4編「無機物質」では、非金属元素や金属元素に 4 ハロゲンとその化合物 5 硫黄とその化合物 実験 ハロゲンの性質 0 0 ついて、単体・化合物の性質を学びます。 0 |6 窒素・リンとその化合物 5編「有機化合物」の分野では、有機化合物につ いて、基本的な構造、官能基による性質の違いな 0 ○ どについて、実験・観察などを通して学びます。 7 炭素・ケイ素とその化合物 6編「高分子化合物」の分野では、日常生活と  $\odot$ 5 中間考査(5/13~5/16) 0 関連付けながら、高分子化合物の反応性や性質 特徴について学びます。 0 0 3章 典型元素の単体と化合物 |1 アルカリ金属とその化合物 2 アルカリ土類金属とその化合物 0 学 3 1,2族以外の典型金属元素とその化合物 0 0 |4章 遷移元素の単体と化合物 |1 遷移元素の特徴 期 2 遷移元素とその化合物 0 1 金属イオンが検出できる反応 2 金属イオンの系統分離と確認 実験 陽イオンの反応 5章 金属イオンの分離と確認 0 学習の到達目標 ・化学的な事物・現象についての観察、実験を行  $\odot$ 0 い、実験技能の向上を図るとともに自然に対する 期末考査(6/25~7/1) 関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と 0 0 |態度を身に付ける。 0 0 ◎ 1・身の回りの事物・現象の背後に潜む、基本的な 5編 有機化合物 1 有機化合物の特徴 |概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観 0 1章 有機化合物の特徴と構造 2 有機化合物の構造式の決定 ○を育成できる。 ・平衡の原理や物質の性質を学び、それらを用い て基本的な化学現象について探究し、日常生活 や社会と関連付けて考察できる。 夏季休業日(7/19~8/24) 季 8 0 2章 炭化水素 1 飽和炭化水素 0 0 2 不飽和炭化水素 0 評価の観点 0 |3章 アルコールと関連化合物 1 アルコールとエーテル 0  $\odot$ |2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸 実験 アルコールとアルデヒド 知識 • 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原 0 4 エステル・油脂・セッケン 理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察・ ○ 実験を行い、基本操作を習得するとともに、それら 0 中間考査5年(9/30~10/3) の過程や結果から自然の事物・現象を科学的に 0 中間考査4・6年(10/7~10/10) 0 **【探究する技能を身に付けている。** 10 4章 芳香族化合物 0 0 1 芳香族炭化水素 0 0 0 思考・ 判断・ 表現 学 2 フェノール類と芳香族カルボン酸 実験 サリチル酸のエステル 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 3 芳香族アミンとアゾ化合物 4 芳香族化合物の分離  $\odot$ する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 期 ○ 出した考えを的確に表現している。観察·実験の 0 6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か 1 高分子化合物の分類と特徴 【結果を実験ノ─トやレポートに的確に記録、整理し 0 0 |1 単糖類と二糖類 2 多糖類 |2章 天然高分子化合物 0 0 3 アミノ酸 4 タンパク質 実験 アミノ酸およびタンパク質の性質 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 0 |的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 ◎ 度を身に付けている。 1 合成繊維 2 合成樹脂 0 0 3章 合成高分子化合物 12 3 ゴム 0 0 冬季休業日(12/20~1/7) 評 価 方 法 問題演習 0 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 |現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 0 |業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 0 ||等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま Ξ す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し 0 家庭学習 0 た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。 0 0 学 2 0 0 期 0 備 0 考

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教	単位

高等学校 生物基礎 数研出版 教科書名 出版社名 指 導 計 画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 単 元 知 思|主 内 容 演習問題(生物の特徴) 問題演習(エネルギーと代謝・呼吸と光合成) 0 0 授業の概要 教科書内容の学習を一通り終えると、発展的な 0 探究活動 観察·実験 内容や探究活動に取り組みます。生物や生物現 ○ 象の特徴は、共通性が見られると同時に多様性 0 があることを理解し、要因を個々のレベルで分析 0 ○ すると同時に、全体を総合的に捉える能力を養い ます。 0 0 0  $\odot$ 5 中間考査(5/13~5/16) 演習問題(遺伝子とそのはたらき) 問題演習(遺伝情報の複製・分配) 0 0 0 探究活動 観察•実験 0 0 期 0 0 0 学習の到達目標 ・5年次に学習した内容を基に、自然界の事象を 0  $\odot$ |分析的、総合的に考察する能力と態度を育成する 期末考査(6/25~7/1) とともに、豊かな科学的素養を養い、共通テスト問 0  $\odot$ 題に対応できる学力を身に付ける。 演習問題(ヒトの体内環境の維持) 問題演習(体内環境の維持のしくみ) 0 0 7 0 0 夏季休業日(7/19~8/24) 季 8 問題演習(免疫のはたらき) 演習問題(ヒトの体内環境の維持) 0 0 0 0 探究活動 観察・実験 0 0 評価の観点 0 知識 • 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原 0 理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するととも 0 中間考査5年(9/30~10/3) 0 に、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、 0 中間考査4・6年(10/7~10/10) 自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身 に付けている。 0 0 10 演習問題(生物の多様性と生態系) 問題演習(植生の遷移) 学 0 0 探究活動 観察・実験 思考 · 判断 · 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 0 する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 期 ○ 出した考えを的確に表現している。 0 0 0 11 0 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 ○ 度を身に付けている。 0 演習問題(生物の多様性と生態系) 問題演習(植生の分布とバイオーム) 12 0 0 冬季休業日(12/20~1/7) 演習問題(生物の多様性と生態系) 0 評 価 方 法 |問題演習(生態系のバランスと保全) 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 ○ 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 ○ 【等」、「提出物(レポートやプリント課題)」により評 Ξ |価します。また、学年の成績は、上記の観点から ○ 評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも 0 家庭学習 評定します。 0 0 学 2 0 0 期 0 0 備 考

## 令和7年度シラバス

科

 理科
 科目
 生物
 学年
 6
 年
 類型
 理科系
 単位数

生物 数研出版 教科書名 出版社名 指 導 計 画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 思 単 元 容 知 内 第1節 刺激の受容 0 授業の概要 第4編 生物の環境応答 0 前年度に引き続き、生物基礎の内容を基に生物 0 0 |第5章 動物の反応と行動 |第2節 ニューロンとその興奮 の内容を学習します。第4編第5章では外界から ◎ の刺激に反応し、神経系を介して反応や行動が起 0 0 |第3節 情報の統合 こるしくみについて学習します。第4編第6章では 0 0 ◎ 植物の成長や反応に植物ホルモンがどのように |第4節 刺激への反応 かかわっているのかを学習します。第5編第7章で ◎ は生態系における生物どうしの関係や、人間生活 0  $\odot$ |第5節 動物の行動 知識の確認・補充問題 |による生態系への影響について学習します。 0 0 5 中間考査(5/13~5/16) 第1節 植物の生活と植物ホルモン 0 0 第6章 植物の環境応答 第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節 0 0 0 0 第4節 器官の分化と花芽形成の調節 期 第5節 環境の変化に対する応答 0 0 0 第6節 配偶子形成と受精 知識の確認・補充問題 0 学習の到達目標 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生 0 0 物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、 期末考査(6/25~7/1) 実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度 0 0 を養う。 第5編 生態と環境 第1節 個体群の構造と性質 0 0 ◎ 1・生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、 科学的な見方や考え方を養う。 ◎ ・観察や実験、探究活動を行い、得られた結果に 0 第7章 生物群集と生態系 第2節 個体群内の個体間の関係 0 ついて自分で考察することで分析する力や思考す る力を養う。 夏季休業日(7/19~8/24) 季 8 第3節 異なる種の個体群間の関係 0 0 0 第4節 生態系の物質生産と物質循環 0 0 0 第5節 生態系と人間生活 0 0 評価の観点 0 0 |知識の確認・補充問題 知識 • 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原 0 0 理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察・実験を行い、基本操作を習得するととも 中間考査5年(9/30~10/3) 0 0 に、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、 0 0 自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身 中間考査4・6年(10/7~10/10) に付けている。 10 演習問題 0 問題演習 0 0 思考・ 判断・ 表現 学 0 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 0 0 する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 期 出した考えを的確に表現している。 0 0 0 0 11 0 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 0 的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 度を身に付けている。 0 問題演習 0 演習問題 12 0 0 冬季休業日(12/20~1/7) 演習問題 評 価 方 法 問題演習 0 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 0 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 0 ||等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま Ξ す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し 0 0 家庭学習 た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。 0 0 学 2 0 0 期 0 0 備 考

化学基礎・化学実験ノート 愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門 教科書名 出版社名 指 導 計 画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 単 元 知 思 容 内 1 物質の成分と構成元素 0 0 0 授業の概要 I 物質の構成 基本的には、化学基礎の内容を復習していきま 0 2 原子の構成と元素の周期表 0 す。また、4・5年次にできなかった実験も行い、化 ◎ 学現象の理解を深めていきます。2学期の後半か 0 3 化学結合 らは総合問題で、大学入学共通テストにも対応で 0 0 ◎ きる力を養っていきます。 4 化学結合と結晶 0 0 0 5 中間考査(5/13~5/16) 0 0 0 0 Ⅱ 物質の変化 1 物質量と濃度 0 0 学 0 0 0 2 化学反応と化学反応式 期 0 0 6 学習の到達目標 ・自然における化学の基本的な概念や原理・法則 0 0 |を理解すると同時に、これらを活用して新しい事物 期末考査(6/25~7/1) や、複雑な事象の奥にある原理や法則を解明す 0 0 る能力を養う。 3 酸と塩基・水素イオン濃度 0 0 ◎ 1・物質や物質の状態・変化について化学的に考察 ᠃する態度と能力を養い、科学的に正しい物質観を 7 O 育成できる。 0 実験 中和滴定 夏季休業日(7/19~8/24) 季 8 0 0 4 中和と塩 0 5 酸化還元反応 0 0 0 0 0 実験 酸化と還元 評価の観点 6 電池と電気分解 0 0 知識 • 技能 自然の事物・事象について、基本的な概念や原 0 理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察・ ○ 実験を行い、基本操作を習得するとともに、それら 0 中間考査5年(9/30~10/3) の過程や結果から自然の事物・現象を科学的に 0 中間考査4・6年(10/7~10/10) 0 **【探究する技能を身に付けている。** 10 7 物質の変化と熱 0 0 0 0 0 学 思考 · 判断 · 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 0 0 総合問題 問題演習 する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 出した考えを的確に表現している。観察・実験の 0 0 結果を実験ノートやレポートに的確に記録、整理し 0 0 ている。 11 0 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 0 的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 度を身に付けている。 0 0 12 0 0 冬季休業日(12/20~1/7) 評 価 方 法  $\odot$ 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 |現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 0 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 0 ||等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま Ξ す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し 家庭学習 0 0 た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。 0 0 学 2 0 0 期 0 備 0 考

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	T田 长1	科目	探究理科 Ⅱ (地学分野)	学年	6	年	類型	又科糸 ▮ ↑	単位数	2	単位
----	-------	----	------------------	----	---	---	----	---------	-----	---	----

地学学習帳 愛媛県高等学校教育研究会理科部会地学部門 教科書名 出版社名 指 導 計 画 評価の観点 月 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 期 知 思|主 単元 内 容 第2章 活動する地球 0  $O \mid \bigcirc$ 授業の概要 1 地球を測る 一学期は、地球表層で起こる地震や火山などの 0 0 |2 地球内部の構造 現象について理解を深めます。 二学期は、地球の歴史、大気と海洋の相互作 0 0 3 プレートテクトニクス |用、宇宙の成り立ちについて理解を深めます。ま 0 ○ た、問題演習によって基礎・基本事項の定着を図 |4 火山の分布 5 マグマの発生 ります。 0 6 火成岩の形成 0 三学期は、問題演習を通して地学分野に関する 理解を完成させていきます。 0 0 5 中間考査(5/13~5/16) 7 造岩鉱物 0 0 0 0 8 地震が発生する仕組 0  $\odot$ 0 9 日本周辺の地震の分布と種類 期 10 活断層を探る 0  $\odot$ 問題演習 0 0 学習の到達目標 ・自然の事物や現象に関心が持てるようになる。 0 0 ・地学分野の基礎・基本事項が身に付く。 期末考査(6/25~7/1) ・地球や宇宙で起こる自然現象について、自分な 0 0 りの表現で説明できるようになる。 第3章 移り変わる地球 1 地表の変化と地層の形成 0 0 7 0 2 堆積岩 0 0 夏季休業日(7/19~8/24) 季 8 3 地殻変動と変成作用 0 0 0 4 化石と地質時代 0 第4章 大気と海洋 1 大気の大循環 評価の観点 0 |2 地球の熱平衡 O 知識 • 技能 自然の事物・現象について、基本的な概念や原 3 大気と海洋の相互作用 0 理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観 ○ 察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、そ 中間考査5年(9/30~10/3) 0 4 自然災害 れらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の 0 0 中間考査4・6年(10/7~10/10) 事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けて 0 0 10 問題演習 学 0 第1章 宇宙の姿 1 太陽系 0 思考 · 判断 · 表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究 0 2 太陽の活動 する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き 期 ○ 出した考えを的確に表現している。観察・実験の 0 3 恒星の誕生と進化 結果や考察を学習帳に的確に記録・整理してい 0 O る。 4 銀河と宇宙の広がり 11 0 問題演習 0 0 0 主体的に学習に取り組む態度 期末考査(11/26~12/2) 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲 0 0 的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態 度を身に付けている。 0 問題演習 0 問題演習 12 0 0 冬季休業日(12/20~1/7) 問題演習 評 価 方 法 問題演習  $\odot$ 0 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表 0 0 現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観 |点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授 0 0 業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト 0 0 ||等」、「提出物(レポートやノート)」により評価しま Ξ す。また、学年の成績は、上記の観点から評価し 0 0 家庭学習 た各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定し ます。 0 0 学 2 0 0 期 備 0 0 考 3